



「防災住民意見交換会」報告

30年度の防災住民意見交換会が1月26日、広岡交流センターで「自主防と家庭における防災資機材・備蓄品」をテーマに30人が参加して開催され熱心な討議が行われました。

意見交換会では市の危機管理課の職員による討議テーマに沿った基調講座が開かれ、主催者側からは昨年暮れに実施したアンケートのうち、家庭における「食料・飲料水」と「災害用品」の備蓄状況のアンケート結果の説明が行われました。

危機管理課の基調講座（概要）

つくば市では市内の各小中学校に防災倉庫が置いてあります。中にはクラッカー、水等飲食料と、生活に必要なものとして毛布、ブルーシート、衛生用品、簡易トイレ等と発電機、投光器等資機材が入れてありますが、今後こういったものを充実させていくか考えているそうです。



危機管理課の講座

ただ、学校は避難所として指定されてはいますが、災害時には物資や水を配る拠点、情報を提供する拠点として機能させていきたいとの考えのようです。

地震のように広範囲かつ家が倒れてしまうような災害では、小学校レベル（54校）での開設は難しく中学校レベル（15校）になるのではないかと。災害が大きくなればなるほど公助は少なくなることは否定できない事実ですので、このことは念頭に置いておいていただきたいとのことです、だからこそ重要なのは自宅でいろいろ備える自助で、自助をしっかりしていただくことをお願いしたいということでした。

自助と共助で備えるものがありますが、自助で備えるものとしては食べるもの、飲むもの、生活に必要なもので、地域で備えるものとしては各家庭で備えることが困難なもの、例えば災害用の井戸、防災倉庫、みんなで使えるものは共有スペースに置いておくことが必要とのことです。

質疑応答での質問

危機管理課の講座の後の質疑応答では次のような質問が出されていました。

- ・災害時における小学校と中学校の位置づけについて違いがありますか。
- ・避難所は桜南小学校と近くに並木中学校がありますが、どちらにするかは自分で選択していいのですか。
- ・桜南小学校まで避難しようと思ったときはかなり大きな地震だと思います、しかし学校の防災倉庫には毛布の備蓄が20枚だということでした、それですと受け入れ人数は20人。ある程度自分の備蓄を持って行くという考えのほうがいいですか。
- ・共助で備えるものとして家庭で備えることが難しいものという話がありましたが、全く同じものを共助で整備しなければならないこともあると思います、その辺どういうものをどのくらい備蓄するかが悩ましい。
- ・生活用水として雨水をためるタンクがあり土浦市では半分補助が出ている、つくば市でもお願いしたい。
- ・家の耐震強化の途中ですが、対象とすべき地震はプレート型なのか直下型か、震度6なのか7なのか情報があたらいたきたい。
- ・水の備蓄の話がありましたが在宅療養をしていると停電が一番心配、東電ではそういう人のために発電機を貸してくれる制度があるようで、登録していると優先的に貸してもらえらしい。つくば市では停電した時の通電の情報とか発電機を貸し出すとかそういった対策を考えていますか。
- ・この地域ではこういうことに困っていると、被災者が何人でけがをした人や重傷者が何名とか道路が壊れているとかの情報は地域の人が一番よくわかる。地域から発信できれば市のほうでいち早く状況を知ることができるので、情報のやり取りが確立できれば動きやすいのかと思う。

・民間ではアマチュア無線を使って各拠点の情報を把握するとかしているの行政でもできるのではないかと。
 (危機管理課との質疑応答の詳細については、HP に載せてある「意見交換会記録」を参照してください)

グループ討議

自治会・自主防の備蓄品を考えるグループ

交流センターが地震で壊れて使えなくなった場合を想定して、しかも雨が降っていて中央公園に 100 人が集まったらどうなるかについて話し合いを行いました。必要なものは食料・水はもちろんだけど雨を凌いで寝るところ、だけど一番困るのはトイレでしょうということになりました。自主防にトイレは今 2 個あるけれど 10 個は欲しいですね、ブランコの支柱をブルーシートで囲ってトイレを置いたり、雨を凌ぐにはお祭りテントを使ったりすることも考えられる、お祭りテントは 10 張りはあるのでどのように配置するかも考えておく必要があるのではないかと。



熱心なグループ討議の状況

家庭における備蓄品を考えるグループ

生活用水・簡易トイレの備蓄率が低い、生活用水としては住民の中に井戸をお持ちの方が水を提供していただけることになっているが、エコキュートを持っているお宅は中にたまっている水を使えるし、空いたペットボトルに水を備蓄しておくのがいいのではないかと。

家庭で備蓄すべきものはネット情報や東京防災（自治会で配布済み）などの情報を参考にするといいのではないかと。非常用持ち出し袋はすぐに持ち出せるもの、例えば健康保険証、お薬手帳、持病の薬（10 日分）などと、ぼちぼち持ち出せる大きめのものを分けて用意しておくといい。

停電対策としては車を利用することも考える。消毒用品（消毒用アルコールやクレベリンスプレーなど）もあるといい、あとは断熱シート（エアマットがおすすめ）と寝袋もあったほうがいい。

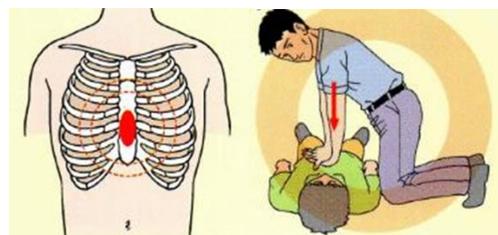
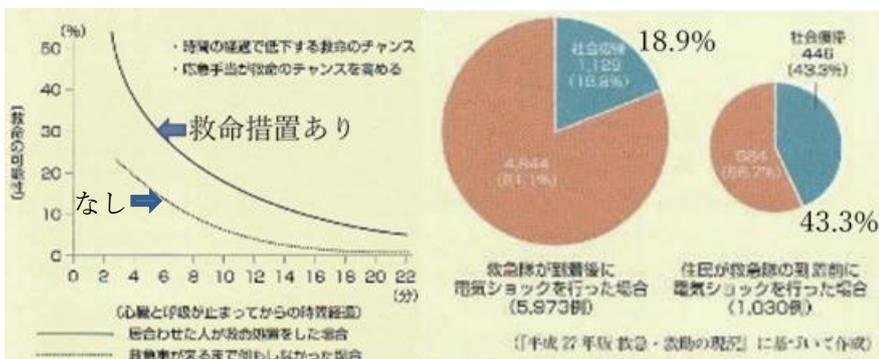
公園でキャンプ体験をしてみたい、自信も付くし足りないものもわかる、子供たちも喜ぶのではないかと。

「救急救命講習会」報告

救急救命講習会が 2 月 16 日交流センターで開催されました。当日は応急手当の基礎知識の説明、心肺蘇生の手順から胸骨圧迫法の仕方、AED の使用方法の実技練習が行われ、最後に気道異物の除去方法の説明が行われました。

心肺蘇生は素人がやると危険と思っている方がいると思いますが、下のグラフに示しますように救命の可能性は、居合わせた人が救命処置をした場合と、救急車が来るまで何もしなかった場合では明らかな違いがあり、救急隊到着前に住民が AED を使用した場合には社会復帰した割合が 43.3%、使用しなかった場合には 18.9%と大きな差があります、怖がらずに心肺蘇生法を習得しておくことが大切です。

交流センターには AED が置いてありますが、家族が急性心筋梗塞や脳卒中で突然倒れたら、AED を取りに行っている余裕がありません、そういうときはまず 119 番に連絡し、救急隊が到着するまで胸骨圧迫を続けることが重要とのことです。胸骨圧迫は図に示すように行いますが、1 分間に 100~120 回のテンポで 5cm くらい沈むくらい圧迫し続けます、5cm は単 3 乾電池の長さです。



腕を伸ばし垂直に圧迫することが重要
 救急振興財団 「応急手当講習テキスト」より